

学術情報センター ニュース

第34号目次

《トピックス》

- ・電子計算機システムの更新……………2
- ・SINETとタイ国(ThaiSarn)との国際回線オープニングおよび式典がバンコクで挙行される……………5
- ・電子図書館事業化へ向けての学協会への説明会の開催……………7
- ・総合目録データベースの図書館蔵レコード2,000万件突破に向けて……………8
- ・新IRシステムモニタリング-報告-……………9
- ・学術情報センター・セミナーの再開……………10
- ・佐藤政務次官が学術情報センターを視察……………11
- ・林田学術国際局長が学術情報センターを視察……………11
- ・ローマ国立中央図書館長Paolo Veneziani氏の来訪……………12
- ・Brian Perry氏の講演……………12
- ・ニューカッスル日本情報会議……………13
- ・データベース'95TOKYOなどに出席……………14

《NACSISサービス案内》

- ・WWW資源提供サービスの開始……………15
- ・日本の医学学会議録データベースのサービス開始……………16

- ・学術雑誌総合目録和文編全国調査説明会の開催報告……………17
- ・「学術雑誌目次速報データベース」の進捗と今後の計画……………18
- ・平成7年度「学術研究活動に関する調査」結果の概要(中間報告)……………19
- ・「パソコン通信による情報検索・電子メール接続案内」の発行……………20
- ・接続ニュース……………20
- ・学術情報センターシステムの継続手続き……………21
- ・科学研究費補助金による利用期限(2月15日)……………22
- ・NACSIS-IRデータベース収納状況……………23
- ・NACSIS-CATデータベース構築状況……………25

《教育・研修》

- ・平成7年度総合目録データベース実務研修会終了報告……………26

《講習会など》

- ・平成7年度学術情報センターシンポジウム開催……………27

《その他》

- ・人事異動……………31
- ・海外渡航一覧……………31
- ・学術情報センター日誌……………32

学術情報センターニュースはNACSIS-BBS,Gopher,WWWでも見るができます。
URLは Gopher gopher://gopher.nacsis.ac.jp, WWW <http://www.nacsis.ac.jp> です。

電子計算機システムの更新

1. はじめに

学術情報センターでは、平成7年12月末から平成8年1月初めにかけてシステムの更新を行う。

今回の更新では、システムの構成を大幅に更新し、メインフレームとUNIXサーバが混在する形とした。このようなシステム構成を採用したのは、従来のシステムとの互換性を保証しつつ、一般に言われているオープンシステム化を指向した結果である。このシステムにより、従来のサービスとの互換性を保ちつつ、段階を追ってサービスシステムをUNIXサーバに移行し、さらなる機能強化を行うことが可能となる。

オープンシステム化を行う目的にはさまざまなものがあるが、本センターでは、新しいネットワーク環境に適合したシステムを構築するところに最大の重点を置いている。近年のネットワーク環境整備により、多くの大学において、研究者が日常利用しているデスクサイドのパーソナルコンピュータやワークステーションからLANを経由して、全世界の情報資源にアクセスできるようになってきた。本センターの提供する各種サービスについても、このような研究者の新しい情報処理環境と整合性を保っていくことが要求されている。主要なシステムをUNIXサーバに移行させることによって、現在のサービス全般について、今後さまざまな改良を加えていく予定である。

目録系のシステムでは、当面はユーザから見える大きな変化はないが、今後2年間程度で開発を予定している新目録システムに移行することにより、UCSコードに基づく多言語対応システムとすることが予定されている。この新目録システムではユーザ環境も大幅に強化される予定である。また、データベースの内容をMosaicなどのW3ビューワーを用いて直接参照できる機能も提供する予定である。

情報検索システムではまず第一に強力な全文検索機能を持つ新情報検索システムを稼働させ、次いでクライアント・サーバモデルによる、GUI環境を活用した、より高度な利用者環境の実現を目指してシステム開発を進めていく。ただし情報検索システムの場合、データベースをメインフレームからUNIXサーバに移行する作業が膨大なものとなるため、2年程度を目処に移行を進める予定である。従って平成8年度は、目録系を中心とする10個程度のデータベースについて移行を行い、平成10年までには全てのデータベースの移行を完了する予定である。

その他、新しいサーバ環境の下で、マルチメディア情報を含む新しいサービス形態の実現も考えて行くことを予定している。

昨年の計算機の移転に引き続き、今年も年末・年始にしばらくシステムの運用を停止せざるを得ない点、ユーザの皆様には大変ご迷惑をかけることとなるが、将来を見据えての必要欠くべからざる作業であり、関係する皆様のご協力をお願いする次第である。

2. システム構成の概略

新システムはオープンシステム化への移行を考慮したオープンシステム対応部分と、現状のサービスを提供するための互換機能実現部分から構成される（システム概念図参照）。

(1) オープンシステム対応部分

①汎用データベースサーバ

Sun SPARCcenter2000E 2 台で構成される。

このサーバは、CAT/ILLシステムのオープンシステム化に対応する。

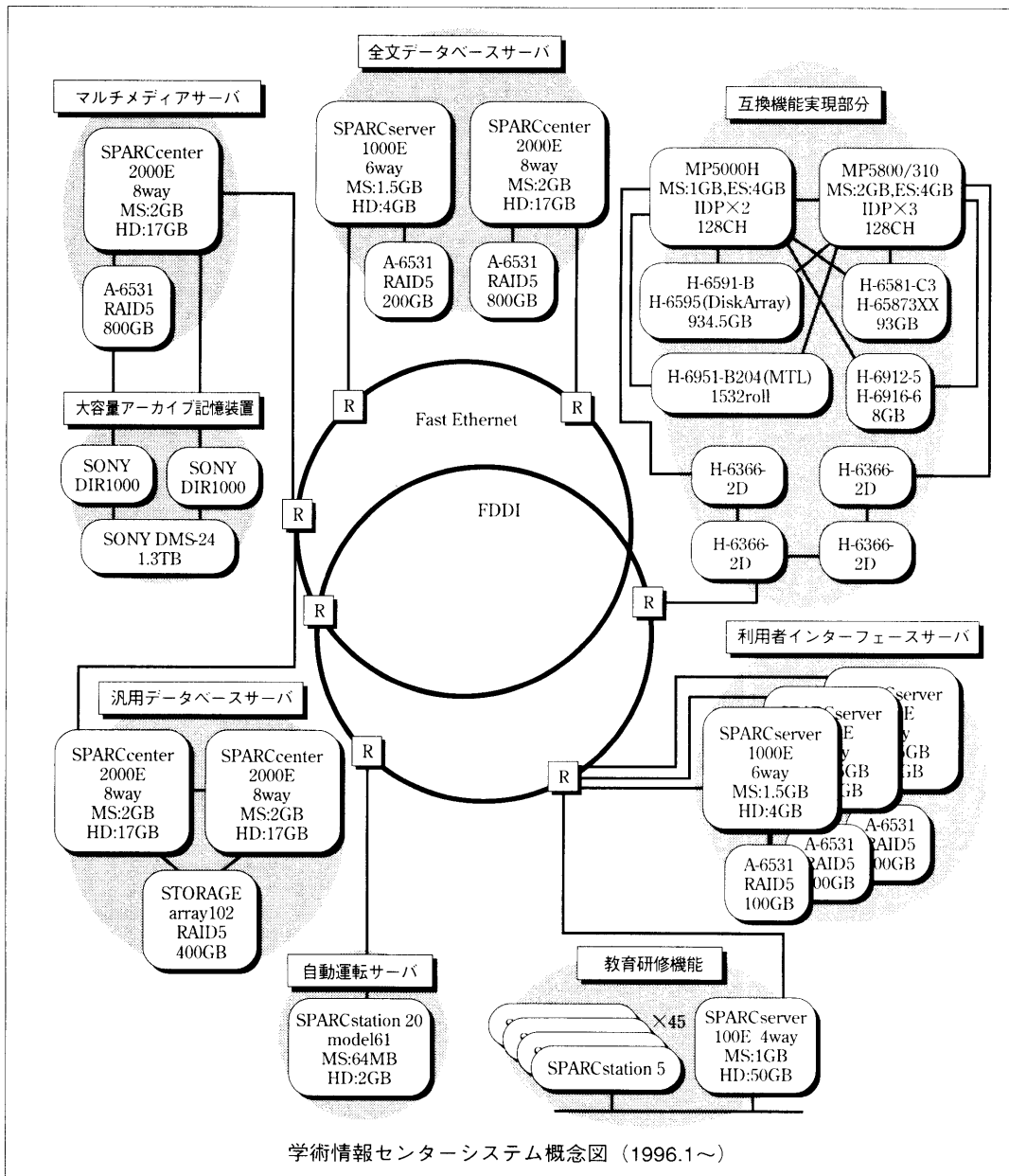
データベースの部分だけをサーバに移し、現状のサービスを提供する実験を既に行っており、実際の運用は来年の夏ごろを目処に作業予定を立てている。

②全文データベースサーバ

Sun SPARCcenter2000EとSPARCserver1000Eで構成される。

このサーバは、IRシステムのオープンシステム化に対応する。

2000Eはサービス用、1000Eはデータベースのメンテナンス用に割り当てることを想定している。



③マルチメディアサーバ

Sun SPARCcenter2000Eで構成される。

マルチメディアデータの蓄積と検索、提供のためのバックエンド・データベースサーバとして機能させる予定。

④大容量アーカイブ記憶装置

SONY FILE-BANK SYSTEMで構成される。

データファイルをバックアップするための利用と、各ディスク装置のバックエンド記憶装置としても機能するアーカイブ装置。総容量1.3TB。

⑤自動運転サーバ

Sun SPARCstation20で構成される。

各サーバの自動起動・停止、異常通報、運転状況や障害状況の表示機能などを行う。

⑥教育研修機能

Sun SPARCserver1000EとSun SPARCstation5 45台で構成。

教育研修用のサーバと45台のワークステーションで構成され、オープンシステム環境下での本センター利用に対する研修を行う。

⑦利用者インターフェースサーバ

Sun SPARCserver1000E 3 台で構成される。

外部の利用者がバックエンドのデータベースサーバ等を利用するためのフロントエンドとして動作し、インターネットから同時に4,000以上の接続が可能なることを想定している。

⑧オープンシステムのディスク容量

汎用データベースサーバ、全文データベースサーバ、マルチメディアサーバ、利用者インターフェースサーバのディスク容量の合計は2.5TBという膨大な量になる。

(2) 互換機能実現部分

①CAT/ILLシステム用プロセッサ

M-880/420の1.5倍以上の性能を有するHITAC M5800/310を導入。このことにより、同時アクティブユーザの上限は、現状の1400を上回り1800程度となる。しかしながら、現状の同時アクティブユーザが最大の実績で1246（平成7年7月25日）であり、過去の伸び率が年間150ユーザ程度あることから、このまま行けば、3年半で1800ユーザの上限を越えてしまう計算となる。このことについては、データベースの部分をオープンシステムに移行することで、システムに対する負荷を軽減させ2,700ユーザ以上の同時アクティブにも耐えられるようにする。

②IRシステム用プロセッサ

M-880/210の約1.1倍の性能を有するHITAC M5000Hを導入。チャンネル性能の向上により、データベース・メンテナンス作業時間の短縮が可能となる。

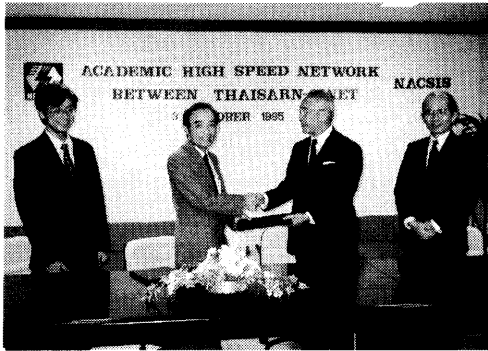
③ディスク装置

総容量1,027GBのうち、934GBについてディスクアレイを採用し、設置スペースと電力消費量を大幅に削減した。

(小山照夫、システム業務係)

SINETとタイ国(ThaiSarn)との国際回線オープニング および式典がバンコクで挙行政される

学術情報センター教授
研究開発部長 小野^{おの}欽^{きん}司^し



MOUの交換



記念式典におけるデモ風景

学術情報センターのアジア地域における最初の国際回線のオープニングが平成7年10月4日タイとの間で行われた。

この開通式はバンコクのバンコクタワービル（NECTEC第3ビル）で挙行政され、センターから猪瀬所長，研究開発部長の小野，松方助教授，木下ネットワーク課長，郷原国際事業係長が出席した。

オープニング記念式典は10月4日（水）午前10時から以下のスケジュールで挙行政された。

- 1）NECTEC所長(Dr. Pairash NACSIS-Thaiプロジェクト議長)による本式典の開始宣言とNACSIS Thai Projectおよび出席者の紹介
- 2）科学技術環境大臣の挨拶
- 3）科学技術環境大臣および猪瀬所長による国際インターネットリンクのオープン
- 4）猪瀬所長の基調講演
- 5）開通デモンストレーション
- 6）記者会見

開通式にはタイ王国の科学技術環境省，大学，図書館，日本大使館公使，在タイ公的機関などから160名程度（内記者が40名程）の参加者があり，用意した椅子はすべて満員で立ち見がでるほどの盛況ぶりであった。

式典の様子はデジタルカメラで開通したばかりのネットワークを通して，ただちに学術情報センターへ伝送し，WWWホームページに載せると同時に記者発表資料とした（次頁参照）。開通式では，タイ国より今回開通した国際専用回線を使用して電子図書館，WWW，TV会議などのデモンストレーションを行った。NACSIS-NECTEC間が2Mbpsの速度で接続しているため，ほとんど日本にのると変わらない応答速度で利用することができた。

開通デモンストレーションで使用する機器は事前に日本からタイ国へ持込み，デモンストレーション機器のセッティング（IPアドレスおよびゲートウェイの設定）を行った。

nv（画像）+CU-SeeMe（音声）によるTV会議，WWW，電子図書館，InPersonによる

NACSIS紹介ビデオの伝送実験を行い、良好な結果を得た。

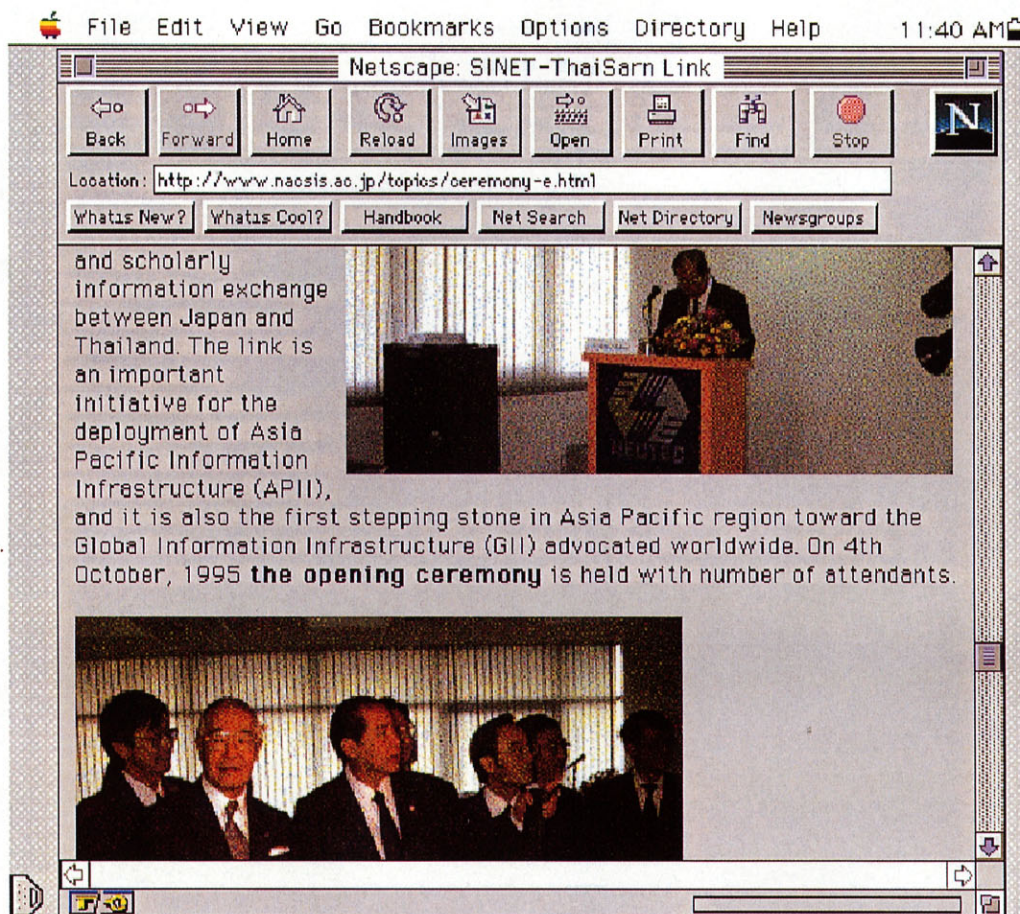
式典では科学技術環境大臣から、この度の措置に対する感謝の挨拶のあと、科学技術環境大臣および猪瀬所長による国際インターネットリンクのオープンが行われた。

猪瀬所長の基調講演はGIIをめぐる世界の動きと今回のタイ王国との直接接続の意義を述べられ、出席者に深い感銘を与えた。

その後、デモンストレーションに移り、最初にDr. Thaweesakによりデモンストレーションの機器および回線の構成の紹介があった。続いて、小野の説明に沿ってデモンストレーションが行われ、電子図書館、地球環境衛星画像アーカイブの検索、WWWによる日本におけるタイ関係研究のホームページのアクセス、最後にTV会議(nv+CU-SeeMe)のデモンストレーションを行った。

その後の情報によると、タイ王宮ではこのリンクを介して、NACSISおよび衛星画像アーカイブにアクセスしているそうである。また10月24日（火）朝の皆既日食の画像をオンラインTV会議で日本へ送り、日本でも直ちに観測画像を楽しんだ。

今回の措置が、今後のアジア地域における学術研究交流の発展に大きく貢献するものと期待している。



記念式典の様子は伝送されNACSISのWWWホームページへ

電子図書館事業化へ向けての学協会への説明会の開催



挨拶する猪瀬所長

本センターでは、創設以来我が国独自の学術研究情報データベースの形成などを通じて、国内の学協会と緊密な協力関係を保ってきました。このたび、平成9年度から電子図書館サービスが事業化されることとなり、またインターネットでの学会の情報発進を支援するための「WWW資源提供サービス」が開始されることとなったのを機に、これらのサービスへのご理解を求め協力関係をより一層深めるため、学協会への一連の説明会を開始しました。

平成7年10月9日（月）には、日本工学会関係学協会の事務局代表者の方々を対象に、第1回目の説明会を本センターにおいて開催しました。説明会では冒頭に猪瀬所長から、我が国の学会情報の更なる流通促進を図りながら事業を展開したいとの挨拶があった後、電子図書館サービスおよびWWW資源提供サービスの内容説明とデモンストレーションを行いました。参加された学協会の方々からも活発な質問や要望などが出され、関心の高さが感じられました。続いて10月12日（木）にも本センターにおいて、データベース作成などでご協力をいただいている学協会を主な対象とした説明会を開催し、多数の学協会のご参加を得ることができました。

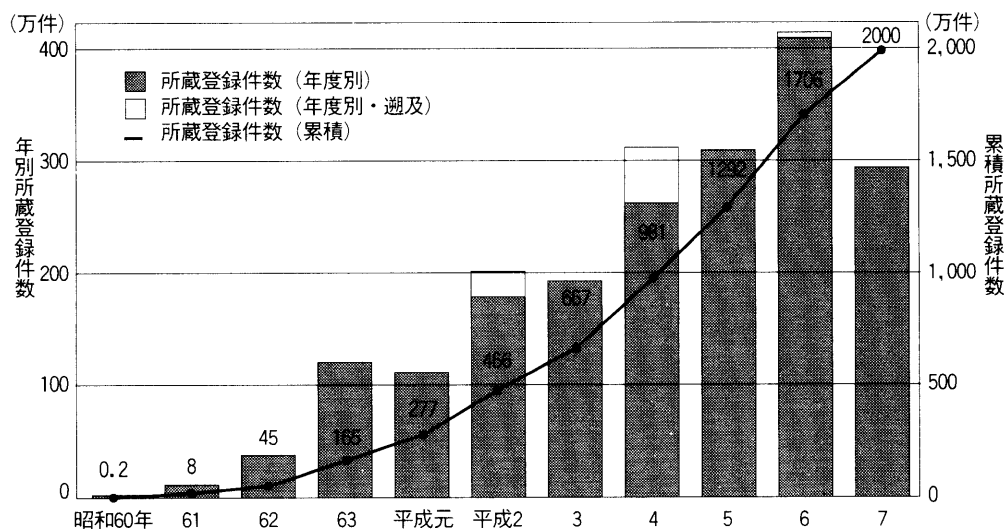
また、11月24日（金）には臨床症例データベース参加学協会を中心に医学関連学協会を対象にした説明会を開催しました。

センターでは、今後も同様の説明会を順次開催して、更に多くの学協会との協力関係を推進し、全ての分野の学会を網羅する質・量ともに世界に誇れる電子図書館サービスの実現およびWWW資源提供サービスの充実を図っていく予定です。

（データベース課）

総合目録データベースの図書所蔵レコード 2,000万件突破に向けて

学術情報センターの目録システムは、東京大学文献情報センター時代の昭和59年12月に東京工業大学附属図書館と最初の接続を果たし、昭和60年7月に第1号の所蔵レコードが登録されて以降、各参加機関の営々としたご努力のお蔭で、11年目の今年12月に図書所蔵レコード総数が2,000万件を突破する見込みとなりました。当初の数年間には立ち上がり期で登録件数がなかなか伸びず、最初の500万件を登録するのに登録レコード第1号から数えて5年10か月の年月を要しましたが、次の500万件には1年11か月、次の1,000万件は2年8か月の年月で登録されるということになります。現在では1日平均の登録件数が2万件近くを数え、総合目録データベースは下表のように急激な成長を示しています。これも一重に400館を超える各参加機関の共同分担目録作業へのご協力の賜物です。各参加機関の皆様に感謝を申し上げます。



総合目録データベース図書所蔵登録件数の推移

この2,000万件の図書所蔵レコードおよび276万件の雑誌所蔵レコードを持つ総合目録データベースを土台にしたILL（図書館間相互貸借）システムも平成4年度からの本格稼働後、現在では年間50万件、1日平均2,000件以上の学術情報の流通（文献複写および相互貸借）が行われるまでになりました。今後も目録システム参加諸機関の皆様に対して総合目録データベース形成のための環境整備を進め、国内外の研究者への学術情報提供機能の一層の強化、高度化を推進していく所存ですのでよろしくお願いいたします。

新 I R システム モニタリング ― 報告 ―

NACSIS-IRについて、利用者の方々のご意見、ご要望を伺うために、平成4年度からNACSIS-IRモニター制度を実施していますが、平成7年度は、センターニュース前号(No.33)でお知らせしたオープンシステム対応情報検索システム(新IRシステム)のプロトタイプシステムの評価をテーマに、以下のように実施しましたので報告します。

1. スケジュール

平成7年6月28日(水)	モニター決定
7月7日(金)	説明会開催
7月10日(月)～8月18日(金)	モニタリング実施
9月1日(金)	報告会開催

2. モニター

専門分野、経験などを考慮し、研究者7人、図書館職員8人、合計15人の方にお願ひしました。

モニター委嘱者は以下のとおりです。(氏名の50音順、敬称略)

研究者

相原総一郎(大阪薫英女子短大)、石井啓豊(図書館情報大)、桂重樹(尚絅女学院短大)、岸田和明(駿河台大)、戸田愼一(東洋大)、原正一郎(国文学研究資料館)、原田隆史(慶應義塾大)

図書館職員

萩原幸子(東京大)、奥田正義(国際日本文化研究センター)、金子信夫(一橋大)、佐野広明(京都大)、高島学(新潟大)、橋洋平(金沢大)、廣田とし子(慶應義塾大)、三宅恒子(豊橋技術科学大)

3. モニターからのご意見など

今回のモニタリングのテーマである新IRプロトタイプ全般については、概ね高い評価を頂きました。その他、以下の点について改善のご要望があり、今後検討のうえ、正式サービス時には可能な限り反映する予定です。

- ① 検索・表示機能の高速化
- ② 数値・句からの検索時の入力書式の簡略化
- ③ ヘルプ機能の充実
- ④ 一部、コマンド、オペランドの見直し
- ⑤ データベースのグループ定義機能の実現

モニター各位には、貴重なご意見等をいただき厚くお礼申し上げます。

(データベース課)

学術情報センター・セミナーの再開

学術情報センター・セミナーは、本センターの前身機関での実施を含め、昭和47年度から昭和61年度まで実施し以降は休止状態となっていましたが、今年度から下記により試行的に再開しました。

1. 目的

高度化する学術情報システム的环境に対応しうる知識と技術を習得し、各大学において今後の学術研究活動支援の中核となる要員の育成を目的としています。

2. 研修期間および定員

平成7年11月6日（月）～12月22日（金）、平成8年1月8日（月）～3月15日（金）（17週間）の期間で定員は若干名（3～4名）です。

3. 対象者

原則として、国公私立大学等の附属図書館または大型計算機センター等の情報処理関連機関に勤務し、セミナーの目的に合致した研修目標および能力を有する年齢35歳までの職員を対象としています。

今年度は、目録所在情報サービス既接続機関の図書館員を対象とし、各機関の長に対して文書によりセミナー実施の案内を行い、受講者を募集しました。その結果、6大学から6名の申込があり、3名の研修員を選考し、実施しています。

4. 主な研修内容

本セミナーは、各研修員が、各々研修課題を設定し、個別に指導教官の指導を受けながら研修課題を遂行し、研究レポートを作成することを第一の目的としています。

各研修員の指導は、本センター教育研修部の教官が担当します。

その他に、「一般講義」として、学術情報センター教官および外部招聘講師の講義、およびワークステーションに習熟するための実習を行います。

また、研修成果は、研修期間中の発表会場で各研修員が発表を行うと共に、完成した研究レポートを学術情報センター出版物に掲載し発表します。

5. 研修課題

今年度は、各研修員の研修課題として以下を予定しています。

- （1）画面型目録インターフェイスの設計
- （2）目録システムにおける文字コードの扱い
- （3）主題分類の解析とその応用

（研修課）

佐藤政務次官が学術情報センターを視察

文部省の佐藤政務次官は、平成7年9月13日（水）に学術情報センターを訪問し、約2時間に亘って本センターの施設を視察した。

佐藤政務次官は、猪瀬所長、関管理部長、池之上事業部長ら幹部職員の出迎えを受け、猪瀬所長から施設の概要などについて説明を受けた。



引き続きセンターの事業である目録システム（CAT）、図書館間相互貸借（ILL）、情報検索サービス（IR）、現在研究開発し、事業に向けて試行中の電子図書館、超高速通信実験のデモンストレーションがそれぞれ行われ、佐藤政務次官からこれらについて熱心な質疑があった。

林田学術国際局長が学術情報センターを視察

林田学術国際局長は、平成7年9月26日（火）に学術情報センターを視察した。

局長は、猪瀬所長、関管理部長、池之上事業部長ら幹部職員の出迎えを受けた後、所長室で猪瀬所長からセンターの概要などについて説明を受けた。



その後、センターの事業である目録システム（CAT）、図書館間相互貸借（ILL）、情報検索サービス（IR）、現在研究開発し、事業に向けて試行中の電子図書館、超高速通信実験のデモンストレーションがそれぞれ行われ、林田学術国際局長からこれらについて熱心な質疑があった。

なお、視察には木島学術情報課長が同行した。

ローマ国立中央図書館長Paolo Veneziani氏の来訪



ローマ国立中央図書館長Paolo Veneziani氏は、日本の図書館事情を視察のため、国際交流基金の招へいによりSerena夫人とともに来日され、1995年10月5日（木）午後、センターに来訪された。Veneziani氏はイタリア中世の出版史および書誌学が専門の世界的な権威であり、また、図書館職員としての経歴も長く、国立図書館の館長としては異色の一人とされている。

センターではNACSIS-CAT, NACSIS-IR, NACSIS-ELSなどのデモンストレーションをご覧になり、システムの機能、日本語の入出力の能力、書誌・所蔵件数の規模、参加図書館数の多さなどに興味を示された。

今年のはじめにローマ国立中央図書館が刊行した、藤野幸雄図書館情報大学副学長が編纂された所蔵する日本語文献の目録をセンターに寄贈された。この目録からイタリア国内にも少なからぬ日本語文献の所在がうかがわれる。

Brian Perry氏の講演



前英国図書館研究開発部長のブライアン・ペリー博士(Dr. Brian Perry)が来日された機会に、センターでも、1995年10月18日（水）に講演をしていただいた。氏には、センターが過去数年にわたり展開してきたNACSIS－英国CATプロジェクトにおいて、プロモーターとして絶大な貢献をしていただいた。また、近年、来日される都度、センターを来訪され、英国あるいは欧州におけるNACSIS理解者としては随一と云うべき方である。

当日の「ヨーロッパにおける21世紀情報化時代への準備(Preparing for the Information Age of the 21st Century: a European View)」と題された講演は、約1時間にわたって行われ、小野研究開発部長をはじめ多くの所員が参加した。内容は多岐にわたっており、学術情報ネットワークを中心とした現状に対する氏の見方が示された。特に、ヨーロッパにおける電子図書館プロジェクトに関する情報は、日本ではなかなか得られない情報だけに貴重なものであった。

講演のあと、今後、本センターが日本国内、および、国際的な学術情報ネットワークの中で果たしていくべき役割や、EUのプロジェクトとして行なわれている電子図書館システムプロジェクトについて活発な質疑応答がなされた。

ニューカッスル日本情報会議

学術情報センター教授
ね ぎ し ま さ み つ
根岸正光

1995年9月5日(火)から8日(金)の間、イングランド北部 Newcastle upon Tyne市のNewcastle大学で、第4回日本情報会議(4th International Conference on Japanese Information in Science, Technology, Industry and Business)が、当地所在のLibrary of Japanese Science and Technology (Robert Phillifent 館長)の主催で開催された。この会議は、1987年に英国図書館の主催でWarwickで開催されたものを第1回とし、第2回が89年にGMD(ドイツ国立情報処理研究所)の主催でBerlinにて、また第3回は91年にフランスのINIST主催でNancyで開催されており、今般4年ぶりにその第4回が開催されたということになる。



ニューカッスル大学で日本情報会議を主催したR. Phillifent氏

久方ぶりに開催された今回のニューカッスル会議は、約80名の参加者で、従前の300名程度の規模からは大分縮小された。それだけに、出席の顔ぶれは、第1回以来の常連が多く、さながら同好の士の集まりといった趣もあり、大いに盛り上がったという感じである。講演では、最近のインターネットの普及を反映し、米国からの発表者が、会場の講演台の上からノート型パソコンでインターネットに接続し、本センターのものも含めて、日本のWWWサーバーのホームページを見せながら、講演するといった光景もみられた。91年のナンシー会議で、デモのためにわざわざ臨時回線を手配し、モデムで何とか接続したことを思えば、まさに隔世の感といった表現があてはまる状況である。

いまや、WWWをのぞけば、その質や有用性は別として、ともあれ多くの日本情報に海外からも簡単かつ無料で接することができるようになったのは確かであって、これは、日本情報へのアクセスに関する従来の不満の相当部分を払拭するのに貢献していると思われる。また、早速、参加者たちの情報交換の手段として、メーリング・リストを設定することが決まり、今後はこれを通じて、常時情報交換を行ってゆくことになった。

本センターからは井上教授、橋爪助教授、片山助手および筆者が参加し、論文発表を行う他、センターで開発中の電子図書館システムについて、実際にインターネットで接続してデモを行ったが、参加者の多くの興味をひき、効果的であった。なお、次回の会議は、1997年6月頃にワシントンで開催したいとの提案が米国商務省の出席者からあった。

データベース '95 T O K Y O などに出席

さる、9月6日（水）から8日（金）の3日間、池袋サンシャインシティ・コンベンションセンターにおいて、データベース振興センター・日本データベース協会主催により、内外のデータベースや電子情報サービスについての最新システムを一堂に集めた「データベース '95 TOKYO」が開催された。学術情報センターからも事業の紹介と学術情報の流通の促進を図るために出展し、インターネット



データベース '95 TOKYO（池袋）

を介しての電子図書館サービス（NACSIS-ELS）、情報検索サービス（NACSIS-IR）、目録所在情報サービス（NACSIS-CAT, ILL）の実演などを行った。同展示会は毎年規模を拡大し、関東で1,2の来場者数を誇る展示会とあって、今回も3日間で約3万5千人が訪れ、本センターブースでのデモンストレーションに熱心に耳を傾けていた。今回の出展では、平成9年4月から本格運用することとしている電子図書館サービスに特に関心が高く、本センターに期待を寄せていることを強く感じた3日間であった。

また、9月28日（木）から29日（金）の2日間、東京学芸大学において「第15回大学図書館集会」が開催され、さらに10月25日（水）から27日（金）の3日間、新潟県民会館において「第81回全国図書館大会」が開催された。



第81回全国図書館大会（新潟）

本センターは全国の図書館員に対して事業の紹介と学術情報の流通の促進を図るためにそれぞれの関連展示会に出展し、インターネットを介した各サービスの実演を行った。

「データベース '95 TOKYO」と同様に、電子図書館サービスに特に関心が高く、多くの図書館員が足を止め、耳を傾けた。

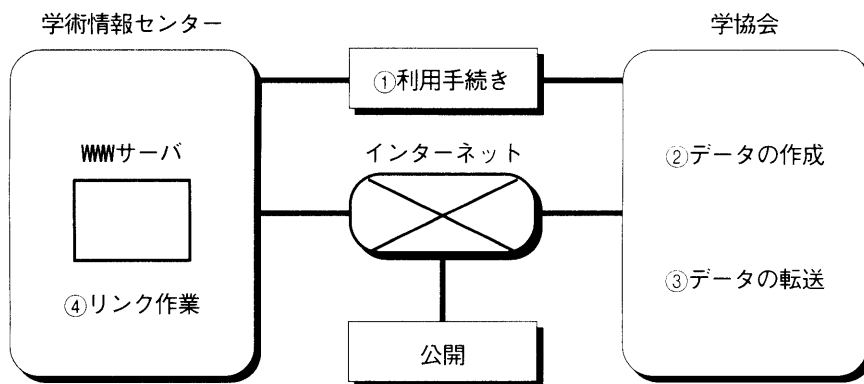
（共同利用第一係）

WWW資源提供サービスの開始

近年、大学等においてはインターネットを通じてWWW(World Wide Web)による情報発信が盛んに行われていますが、学術情報センターでは、さらなる学術情報の流通の促進を図るため学協会を対象として、学協会が収集している学術情報の発信手段を提供することといたしました。

具体的には、学術情報センターが、インターネット（SINET）に接続されたWWWサーバを無料で提供しますので、そこに各学協会が情報を転送・登録することにより、日本国内のみならず全世界に向けての情報発信が可能となります。

利用に当たっては、利用依頼書による申請および覚書の交換が必要となります。以下に概要を説明します。



①利用手続き

- (1) 学協会は「WWW資源提供サービス利用依頼書」により利用の申込みを行う。
- (2) 学術情報センターで利用を承認したときは、「WWW資源提供サービス利用回答書」および覚書2通を送付する。
- (3) 覚書に会長印を押印し1通を学術情報センターに返送する。

②データの作成

- ・ パソコンなどを使用して、ホームページおよびコンテンツのデータをHTML形式で作成する。
- ・ 図表や写真などを表示する場合はスキャナなどにより電子化する。

③データの転送

- ・ インターネット（SINET等）からファイル転送（ftp）により転送する。

④リンク作業

- ・ 必要により転送したデータのリンク付けを行う。

このサービスの利用については、共同利用第二係（TEL.03-3942-6934, FAX.03-3942-6797）までお問い合わせください。

（共同利用第二係）

日本の医学会会議録データベースのサービス開始

(財)国際医学情報センター(IMIC)が作成する日本の医学会会議録データベースを同センターの協力・提供を受け、NACSIS-IRによるサービスを平成7年11月20日(月)から開始しましたので、その概要などをお知らせします。

1. 概要

(1) 収録対象

日本国内で開催される医学・医療・薬学に関する学会、研究会の予稿集、抄録集および雑誌掲載会議録の書誌情報。

(2) 収録範囲、収録件数

1990年以降、サービス開始時の件数は約17,600件。

(3) 収録項目

学会名、開催年月日、開催地、資料標題、雑誌名、巻号、ページ、キーワードなど。

(4) 呼出しコマンド

IMICMCP

2. 利用方法

データベースの内容および利用方法などについては、「NACSIS-IRデータベースシート(IMICMCP)」をご覧ください。

3. 利用料金

データベースを呼び出す都度・・・30円/回

なお、利用に係る経費は、各データベースの利用額の月毎の合計にその3%を加算した額となります。

4. その他

本データベースに収録されている原資料はすべてIMICで所蔵していますので、文献複写の申込み(NACSIS-ILLでの申込みも含む)が可能です。詳細はIMIC資料サービス課までお問い合わせください。

(問い合わせ先：(財)国際医学情報センター資料サービス課 TEL03-5361-7088, FAX 03-5361-7150)

(データベース課)

学術雑誌総合目録和文編全国調査説明会の開催報告

平成8年度中の新版刊行を目指し、今年度から学術雑誌総合目録和文編の改訂作業を開始しています。この改訂作業の中心となる全国調査を始めるため、平成7年10月下旬～11月上旬にかけて全国6か所の会場で計9回、全国調査説明会を開催しました。今回の調査には、前回の和文編調査に比べて約10%多い776機関が参加しており、説明会にはそれらの機関から合計951名の方々が参加なさいました。

説明会では、センター側からまず、全国調査の意義と概要、作業手順、データ記入の方法などを中心とした説明を行い、その後、希望者向けにCD-ROM全国調査システムの説明とデモンストレーションを行いました。今回始めて行ったCD-ROMシステムへの関心は高く、各会場とも参加者の約半数の方々がこのデモをご覧になりました。すぐにオンライン接続ができない場合の代替手段として、今後多くの未接続館に、このCD-ROMシステムを採用していただきたいと考えています。新たに採用を希望する場合は、雑誌目録情報係（TEL.03-3942-6985～6）までお申し出ください。

現在、平成8年3月末のデータ提出を目標に、各機関での調査作業を開始していただいております。平成9年3月に予定している新版刊行まで、各参加館の関係者の皆様のご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（目録情報課）



「学術雑誌目次速報データベース」の進捗と今後の計画

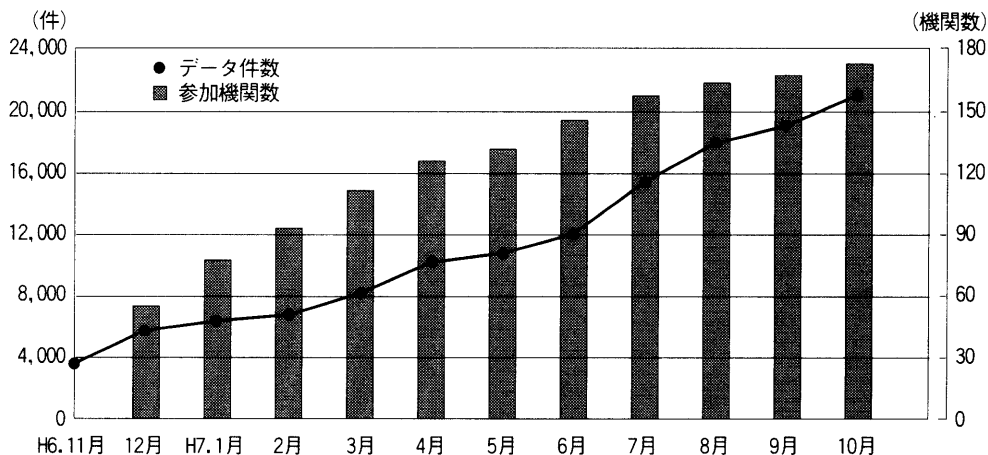
「学術雑誌目次速報データベース」は、このデータベースの形成事業に参加する機関の共同分担入力により作成し、国内の学術雑誌に掲載された論文・解説記事などの各種記事データを収録しています。昨年9～10月に、大学・短大・高専等を対象に「データ入力説明会」を開催し、平成6年11月1日からNACSIS-IRでのサービスを開始しました。

平成7年10月20日現在データベースの収録件数は23,500件になりました。またデータ提供機関の参加状況は以下のとおりです。

	機 関 数	組 織 数	雑 誌 数
国 立 大 学	57	150	779
公 立 大 学	7	10	45
私 立 大 学	68	73	395
短 期 大 学	20	20	35
高等専門学校	13	13	15
そ の 他	9	9	23
合 計	174	275	1,292

(最新の参加機関、収録対象雑誌の一覧は Gopher でも見ることができます。URL は [gopher://gopher.nacsis.ac.jp/11/ir/sokuho](http://gopher.nacsis.ac.jp/11/ir/sokuho) です。)

またデータ件数と参加組織の推移は以下のとおりです。



今後の計画としては、以下のものがあります。

- (1) 「データ入力説明会資料」を改訂した入力マニュアルの発行
- (2) データベースに収録した記事データを任意の条件で抽出し、電子メールで各入力機関に配付する機能の実現
- (3) 各参加機関の週及入力作業を支援するための週及用データを作成し、それを電子メールやファイル転送で各入力機関に配付する機能の実現

詳細は決まり次第ご案内します。

なお、このデータベースに関するお問い合わせは、データベース課文献データベース係 (TEL.03-3942-6975～6, FAX. 03-3942-9398) までお願いします。 (データベース課)

平成7年度「学術研究活動に関する調査」結果の概要

－中間報告－

学術情報センターでは、学術研究活動の現状把握と「研究者ディレクトリ」の充実・更新を目的として、標記調査を実施しました。研究機関ならびに研究者の方々には、お忙しい中にもかかわらずご協力いただき、ありがとうございました。今後とも定期的に調査を行っていく予定ですので、一層のご協力をお願いいたします。

今回の回収状況（12月1日現在）は以下のとおりです。

	機 関			研 究 者		
	調査数	回収数	回収率(%)	調査数	回収数	回収率(%)
国立大学	99	96	97.0	56,724	47,508	83.8
公立大学	52	48	92.3	7,894	6,149	77.9
私立大学	415	394	94.9	70,282	50,840	72.3
国立短期大学	30	30	100.0	1,206	1,057	87.6
公立短期大学	60	58	96.7	2,087	1,661	79.6
私立短期大学	495	467	94.3	14,671	14,293	97.4
国立高等専門学校	54	54	100.0	3,586	3,670	102.3
公立高等専門学校	5	5	100.0	358	275	76.8
私立高等専門学校	3	3	100.0	171	161	94.2
大学共同利用機関等	20	19	95.0	1,247	943	75.6
文部省・文化庁	2	2	100.0	81	43	53.1
文部省 施設等機関	5	3	60.0	183	181	98.9
文化庁 施設等機関	11	8	72.7	271	211	77.9
文 部 省 所 管 民間学術研究機関	154	116	75.3	990	923	93.2
合 計	1,405	1,303	92.7	159,751	127,915	80.1

注)

- ・大学の短期大学部は、短期大学に含まれます。
- ・放送大学は、国立大学に含めました。
- ・研究者のうち調査数は、平成6年度における研究者数を100としているため、回収率が100%を超えるものがあります。

(データベース課)

「パソコン通信による情報検索・電子メール接続案内」の発行

前々号、前号でご案内したとおり、各通信ソフトごとに「まいと〜く for WINによるNACSIS接続」および「ターミナルによるNACSIS接続」を作成いたしましたが、今回はモデムや雑誌の付録になっている秀TERMによる接続案内「秀TERMによるNACSIS接続」を作成しました。

今回の接続案内は秀TERMの特徴である強力な通信マクロ（スクリプト）を利用して学術情報センターの接続の自動設定を行います。自動設定マクロをフロッピーディスクで提供します（申込みにはフロッピーディスクが必要です。）。

ご希望の方は、MS-DOSフォーマット済の2HDのフロッピーディスクを同封のうえ、①利用者番号、②利用者名を記載するとともに「秀TERMによるNACSIS接続希望」と明記し、下記宛て先まで郵送で申込みください（FAXでは受け付けません）。

〒112 東京都文京区大塚3丁目29番1号
学術情報センター 管理部 共同利用課
「秀TERMによるNACSIS接続」係

なお、前号紹介した「ターミナルによるNACSIS接続」は、PC-98専用となりますのでご注意ください（DOS/Vのターミナルは漢字コードをサポートしていませんので利用できません）。

前々号、前号にご案内した「まいと〜く for WINによるNACSIS接続」および「ターミナルによるNACSIS接続（PC-98専用）」の接続案内も好評のため残部が少なくなっています。ご希望の方は、①利用者番号、②利用者名を記載するとともに「まいと〜く for WINによるNACSIS接続」または「ターミナルによるNACSIS接続」と明記し、FAX（03-3942-6797）で申込みください。

さらに、Macintoshのフリーウェアの通信ソフトCasTermの接続案内「CasTerm（Macintosh）によるNACSIS接続」を作成する予定です。（共同利用第一係）

接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

（平成7年11月8日現在）

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
402	奈良県立奈良図書館	7.08.31	408	農水省家畜衛生試験場	7.10.20
403	（財）結核予防会結核研究所	7.09.06	409	成城大学	7.10.30
404	九州国際大学	7.09.22	410	新潟経営大学	7.11.02
405	北海学園北見大学	7.10.03	411	安田女子大学	7.11.02
406	沖縄県立芸術大学	7.10.03	412	戸板女子短期大学	7.11.08
407	郡山女子大学	7.10.20			

この結果、参加機関数は、国立大学97、公立大学32、私立大学206、共同利用機関12、短期大学24、高等専門学校7、その他34、合計412となりました。（共同利用第一係）

学術情報センターシステムの継続手続き

昨年同様、学術情報センターシステム（情報検索サービス、電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）を平成8年度も引き続き利用する方は、平成8年2月1日（木）から3月21日（木）の期間に1または2の方法で継続手続きを行なってください。

なお、①支払科目を変更する場合、②文部省科学研究費補助金を支払科目とする場合、③利用期限が3月末日でない場合は、継続申請を行うことはできません。

1 学術情報センターへ直接申請した利用者

昨年同様、利用者宛へ継続利用申請書は送付しませんので、支払責任者および経理責任者と相談の上、今年度と同じ内容（登録内容に変更がない）で次年度も利用を継続する場合は「APPLY」コマンドにより継続の申請を行ってください。

なお、登録内容に変更がある場合は、「学術情報センターシステム利用申請書」により変更の申請を行うこととなりますが、次年度の登録内容を変更する場合は、必ず「継続後の変更」と明記してください。（「継続後の変更」と明記がない場合はその年度の内容が変更されることとなります。）

また、今年度内に次年度への継続を失念した場合は平成8年4月以降の利用はできなくなりますが、6月末迄の期間は前年度に失効した利用者番号でセンターに接続し「継続の有無の問い合わせ」に答えることにより失効した利用者番号での登録を受付けます。

（ただし、失効した利用者番号を利用可能にするのに約2週間位の時間が必要です。）

また、来年度（平成8年4月）から登録内容を確認するための「CHKAPPLY」コマンドを新設します。このコマンドにより1年中いつでも登録内容の確認ができます。

2 大型計算機センター経由により申請した利用者

利用者が所属する大型計算機センター（所属センター）へ継続申請を行った後、受付期間内に、所属センターから学術情報センターの継続申請を、第二センター申請コマンドで継続を行ってください。

なお、第二センター申請コマンドの詳細は所属の大型計算機センターへ問い合わせてください。

〔各申請の受付期間〕

申請の種類	受付期間
平成7年度新規・追加の受付	平成8年2月23日（金）まで
平成7年度変更・取消の受付	平成8年3月29日（金）まで
平成8年度への継続の受付期間	平成8年2月1日（木）から3月21日（木）
平成8年度の受付	平成8年4月1日（月）から

※ただし、平成8年度の学術情報センターへの新規申請は平成8年3月25日（月）から受付けます。

〔継続申請の方法〕

	利用者種別	継続条件	継続手続き
継続処理	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	「APPLY」コマンドにより継続する。
		登録内容に変更あり	利用申請書に「継続後の変更」と明記し、申請する。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ申請（継続・新規とも）したのち、第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで新規に申請する。
		登録内容に変更あり	
継続を失念した場合	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	失効した利用者番号でセンターに接続し、「継続の有無の問い合わせ」で継続する。
		登録内容に変更あり	失効した利用者番号でセンターに接続し、「継続の有無の問い合わせ」で継続後に利用申請書で変更の申請を行う。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ申請（継続・新規とも）したのち、第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで新規に申請する。
		登録内容に変更あり	

〔申請書の登録内容の確認（平成8年4月1日からサービス開始）〕

事 項	コマンド
登録内容の確認（新設）	「CHKAPPLY」コマンドにより確認する。

（共同利用第一係）

科学研究費補助金による利用期限（2月15日）

学術情報センターシステムの利用料金の支払いのうち、文部省科学研究費補助金によるものの利用期限は、平成8年2月15日（木）までになります。利用料金の請求（納入告知書）は、平成8年2月20日（火）頃に送付する予定です。

なお、CHARGEコマンドによる利用料金参照機能も、2月15日（木）以降は利用出来ませんので、2月の利用料金についてはデータベース検索終了時に表示される利用料金の内訳をご覧ください。

（共同利用第一係）

NACSIS-IRデータベース収納状況(1/2)

平成7年10月13日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	141,189	昭和60年度～
2	学位論文索引データベース	121,134	昭和59年度～
3	学会発表データベース	219,564	昭和62年3月～
4	学術論文データベース第一系(電子)(全文) (抄録)	2,421 4,927	平成元年度～
5	学術論文データベース第二系(化学関連)	14,565	昭和58年1月～
6	学術論文データベース第五系(理学関連)	6,385	平成3年3月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	平成4年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	3,153	昭和39年度～
9	経済学文献索引データベース	113,330	昭和58年1月～
10	学会予稿集電子ファイル	163,215	1955年4月～
11	臨床症例データベース	6,016	1984年4月～
12	雑誌記事索引データベース	1,185,851	1984年1月～
13	現行法令データベース	3,745	平成6年10月末現在
14	維新史料綱要データベース	28,667	
15	古文書目録データベース	3,014	
16	木簡データベース	15,925	
17	研究者ディレクトリ	126,561	平成5年12月現在
18	データベース・ディレクトリ	1,752	平成6年7月現在
19	家政学文献索引データベース	57,276	1979年1月～
20	RAMBIOS	9,724	1983年4月～
21	化学センサーデータベース	16,439	1975年1月～
22	日本独文学会文献情報データベース	22,316	1980年～
23	スラブ地域研究文献データベース	3,373	1988年～
24	電気化学データベース	72,153	
25	文化財科学文献データベース	13,873	1879年1月～
26	化学と教育誌データベース	3,537	1972年1月～
27	現代邦楽作品データベース	1,665	1963年1月～
28	日本建築学会文献索引データベース	29,689	1986年1月～

NACSIS-IRデータベース収納状況 (2/2)

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
29	Life Sciences Collection PLUS Marine Biology and Bio Engineering	1,505,051	1982年1月～
30	MathSci	1,739,139	1940年1月～
31	COMPENDEX PLUS	3,138,714	1976年1月～
32	Harvard Business Review	2,705	1927年1月～
33	ISTP & B	2,597,977	1982年1月～
34	EMBASE	3,569,760	1984年4月～
35	SciSearch	9,270,745	1983年1月～
36	Social SciSearch	1,618,991	1983年1月～
37	A & H Search	1,468,469	1983年1月～
38	学術雑誌目次速報データベース	22,721	
39	目録所在情報データベース (和図書)	1,068,834 12,597,282	
40	目録所在情報データベース (洋図書)	2,253,704 6,555,316	
41	目録所在情報データベース (和雑誌)	77,648 1,587,297	
42	目録所在情報データベース (洋雑誌)	125,412 1,119,483	
43	科学技術関係欧文会議録	43,716	昭和60年1月～
44	アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	5,883	平成5年10月末現在
45	JPMARC	1,732,822	1868年1月～
46	LCMARC(Books)	3,909,428	1968年1月～
47	LCMARC(Serials)	676,233	1973年1月～
48	大型コレクションディレクトリ	496	1978年4月～
49	学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	16,257	1991年4月～
50	学協会集会スケジュール (日本工学会編)	4,682	1991年4月～

(注) No39～42のデータベースの上段は書誌件数，下段は所蔵件数。(システム業務係)

NACSIS-CATデータベース構築状況

平成7年10月13日現在

データベース名称			収納件数	備考(収録期間等)
総合目録データベース	和図書	書誌	1,076,850	
		所蔵	12,810,838	
	洋図書	書誌	1,516,038	
		書誌(遡及)	737,950	
		所蔵	6,560,709	
	和雑誌	書誌	80,495	
		所蔵	1,631,044	
	洋雑誌	書誌	128,145	
		所蔵	1,136,353	
	著者名典拠		818,422	
	統一書名典拠		7,847	
	和雑誌変遷マップ		8,896	
	洋雑誌変遷マップ		13,153	
参照ファイル	LC/MARC	洋図書書誌	4,720,242	1968年1月～1995年10月
		洋雑誌書誌	683,393	1973年1月～1995年9月
		非文字書誌	268,147	1973年1月～1993年7月
		洋書著者名典拠	2,813,238	1977年1月～1995年10月
		洋書統一書名典拠	160,952	1977年1月～1995年10月
	JP/MARC	和図書書誌	1,752,630	1948年1月～1995年10月
		和雑誌書誌	95,846	1968年8月～1994年10月
		和書著者名典拠	327,561	
	UK/MARC	洋図書書誌	1,510,029	1950年1月～1995年9月
	TRC/MARC	和図書書誌	429,717	1985年4月～1995年10月
	GPO/MARC	洋図書書誌	384,748	1976年1月～1995年9月

(システム業務係)

平成7年度総合目録データベース実務研修会終了報告

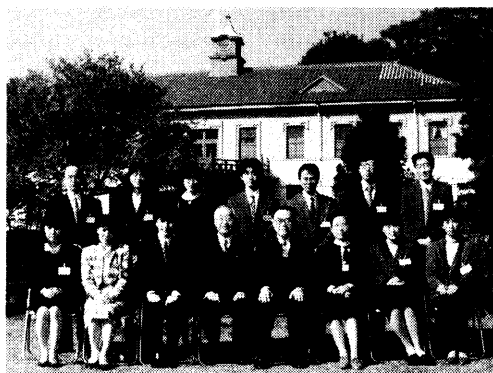
平成7年度総合目録データベース実務研修会は、第1回が平成7年10月2日（月）から10月20日（金）まで、第2回が11月13日（月）から12月1日（金）までのそれぞれ3週間にわたり学術情報センターにおいて開催しました。

この実務研修会の目的は、学術情報センターと接続する図書館における総合目録データベース構築を推進するための指導的、中核的人材を養成することで、具体的には当該図書館における目録業務担当者の指導をはじめ、学術情報センターと共催で実施する地域講習会の講師等を行う高度な知識と技術を修得することです。

今年度は、32大学から46名の申込があり、各回定員の12名の研修員を選考し、下記の方々が、実務研修会の全課程を無事修了しました。これにより、学術情報センターが主催する実務研修会の昭和61年度からの修了者数は279名になります。修了された方々の今後の活躍が大いに期待されます。



第1回研修員



第2回研修員

平成7年度 総合目録データベース実務研修会修了者名簿

第 1 回		第 2 回	
氏 名	所 属 大 学	氏 名	所 属 大 学
平 賀 陽 子	山形大学	岡 田 潔	北海道大学
安 斎 善 明	福島大学	丸 谷 三 砂	電気通信大学
飯 島 朋 子	一橋大学	筒 井 千 雅	大阪教育大学
小 堀 淳 子	国際日本文化研究センター	小 山 晶 子	摂南大学
吉 井 春 江	東京大学	富 本 壽 子	旭川医科大学
大田原 章 雄	東京芸術大学	上 原 正 隆	図書館情報大学
久 部 恵 子	神戸大学	堀 口 純 夫	金沢大学
田 川 登紀子	鹿屋体育大学	石 田 康 博	名古屋大学
高 野 幸 三	東京工業大学	高 野 真理子	日本女子大学
小 山 葉 子	新潟大学	森 田 和 子	京都大学
木 村 正 昭	岡山大学	森 川 友 代	愛媛大学
上 原 恵 美	琉球大学	昌 子 喜 信	九州大学

（研修課）

平成7年度学術情報センターシンポジウム開催

平成7年度学術情報センターシンポジウムは、「デジタル情報流通と学術コミュニティ」をテーマに、関西地区と東京の2会場で開催した。関西会場は10月25日（水）に立命館大学びわこ・くさつキャンパスのプリズムホールにおいて開催し、241名の参加者があった。東京会場は11月21日（火）に銀座・ヤマハホールにおいて開催し、365名の参加者があった。

井上如学術情報センター教育研修部長・教授の司会で開会し、関西会場では主催者を代表して山田尚勇学術情報センター副所長が挨拶、東京会場では猪瀬博学術情報センター所長の挨拶の後、立命館大学総合情報センター次長郷端清人氏による「高度情報化キャンパス：立命館大学における情報化の現状について」の講演があり、続いて国立国会図書館総務部企画課課長補佐植月献二氏による「国立国図書館関西新館構想」の講演を行った。

昼食休憩後、小山照夫学術情報センター教授による「メインフレームからオープンシステムへ」、大山敬三学術情報センター助教授による「次世代の情報検索サービス」、それぞれ配付資料にもとづいて講演を行った。

休憩後、「世界のデジタル・ライブラリー」の講演を、関西会場では片山紀生学術情報センター助手、東京会場では杉本雅則学術情報センター助手が行った。

最後に講演者一同がステージに揃い、会場の参加者から寄せられた質問に分かりやすく回答した。質疑応答の後、主催者を代表して井上教育研修部長が閉会の挨拶を行った。

平成7年度学術情報センターシンポジウム講演要旨は次のとおりである。



高度情報化キャンパス：立命館大学における情報化の現状について

立命館大学総合情報センター次長

郷端 清人

立命館大学では21世紀にむけて、学内全体の諸機能の高度化と新たな水準での教育・研究の推進を可能とする方策として、大規模な情報基盤整備事業を展開している。

昨年からびわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）全構内と衣笠キャンパス（京都市）に新設された政策科学部を中心に大規模なネットワーク・システム「RAINBOW：Ritumeikan Academic Information Network Bridging Our World」の運用を開始した。さらに今年は、既存の学部での教育・研究・学習を支援する情報基盤整備を展開し、立命館中学・高等学校等の情報環境整備も進めている。

本年度中には約5000か所の情報コンセントと約2500台のワークステーションやパソコン端末機が全キャンパスに整備され、国内でも有数の大規模ネットワーク・システムが完成することとなる。

情報処理技術の急速な発展、通信技術の高度化、昨今のインターネット利用者の驚異的な拡大にともなって、大学における教育・研究・学習、管理・運営の在り方にまで大きく影響を及ぼすものになってきた。高度に情報化されつつある学術情報の世界とそれを取り巻き急激に変貌する社会に対応して、今や大学も自ら変貌していかなければならぬ重要な時期にきていると考える。

立命館大学で実施した情報化の取り組みの経緯とその内容を出きるだけ詳しく紹介し、とりわけ図書館等の情報サービスについて触れておきたい。また、情報基盤を整備をすすめる他大学の参考となるような事例を紹介する。

国立国会図書館関西新館構想

国立国会図書館 企画課課長補佐

植月 献二

2002年に最新機能を持った大規模な図書館が関西地区に出現する。国立国会図書館の資料を大きく二つに分けて分散収蔵し、予想される収蔵能力の限界を解決するとともに危険分散をも図ることができる。

高度情報化時代の要求に対応し、東京・関西両館を高速通信回線で結び、二つの館が合わせて統合した情報提供サービスを行う計画である。この計画では必然的に情報の電子化という言葉がキーワードのひとつとなる。

すでに国立国会図書館では、将来の図書館機能の一つとしてあるべきシステムの開発実験を開始している。通産省・情報処理振興事業協会との間で行っている「パイロット電子図書館プロジェクト」について、その概要を紹介する。

関西新館建設を契機に、国立国会図書館はいつでも、誰でも、どこからでも目指す情報を手に入れることができる図書館にしていくことを計画している。高度化する情報化社会のなかで、関西新館の構想の当面する課題を踏まえて、どのように国内・国外の図書館との連携・協力をもとに、この計画を推進していくかを考えてみる。

国立国会図書館にとっての電子図書館とはどのようなものかを具体的に描いて紹介する。

メインフレームからオープンシステムへ

学術情報センター教授

小山 照夫

学術情報センターでは、現在行っている主要なサービスに係わるシステムの構成を本年12月下旬から大幅に更新する。従来いわゆるメインフレームだけから構成されていたシステムを、メインフレームとUNIXサーバが混在した構成に変更することが最大の特徴である。このようなシステム構成の変更は、一般に言われるオープンシステム化、ないしはダウンサイジングと呼ばれるものに相当する。

一般にオープンシステム化という場合には、複数のベンダーから提供されるハードウェアの上で、基本的に同一のソフトウェアが稼働する環境を指す。今回導入するUNIXサーバは基本的にこの要件を満足するものがあるが、学術情報センターの主たる目的はむしろ、インターネットを中心とする新しいネットワーク環境に適合したシステム作りを進めるところにある。

システム構成をオープン化することは、システム全体の可能性を大きく広げることになり、学術情報流通の基盤として重要な役割を担う学術情報センターとして新たな発展の契機となるに違いない。しかし、実際にシステムを円滑に運用し、実用上十分な信頼性を実現していくためにはいくつかの課題をクリアする必要がある。

学術情報センターのサービスを利用する全国の大学・研究機関等に支障のないように、今回のシステム移行を成功させるだけでなく、国内・国外の教育・研究活動に今まで以上に寄与できる新システムとなるようにしたい。

学術情報センターのシステム移行の概要を紹介しながら、今後の展開と課題を解説する。

次世代の情報検索サービス

学術情報センター助教授

大山 敬三

高度情報化に伴い、情報検索サービスを取り巻く環境が大きく変わってきている。提供情報の在り方では、従来、専門家によってデータベース用に作成された二次情報を中心であったが、昨今は、著者が二次情報データを作る傾向にあり、さらに著者が作成した一次情報データが増えてくることが予想される。利用者の変化として、サーチャによる検索から、エンドユーザによる検索へ移ってきている。利用環境の方も、従来の文字型端末からGUIを用いた高速回線に変化してきている。

このような環境変化に対応するために、学術情報センターでは、メインフレームからオープンシステムへの切替えを図るとともに、初心者にはわかりやすく、熟練者には効率的で高度な利用を可能とする次世代の情報検索システムの構築に着手した。

新情報検索システムは、ISO8777-1994のコマンド体系を採用し、3階層までの構造を的確に取り扱うことが可能であり、高度な全文検索と統合検索をサポートしている。広く普及した利用者環境からの利用にも配慮し、WWWを用いた検索サービスも提供する。また、分散型のデータベースをサポートするために、インデクスサーバによる「WWWをカバーする」情報検索サービスへの展開を構想している。

世界のデジタル・ライブラリー

学術情報センター

助教授 高須 淳宏

助 手 片山 紀生

助 手 杉本 雅則

「電子図書館」という言葉に対して多くの人が持つイメージは、図書館の電子化、つまりこれまでの図書館の本棚にあった本を電子情報化し、コンピュータを用いて検索したり閲覧するというものであろう。電子図書館の実現とその利用については、社会的影響が大きく、図書館学をはじめ、情報工学、社会学、教育学などのさまざまな視点から研究が行われている。

我が国をはじめ世界の各国で電子図書館の研究開発が進められており、本発表ではそれらのうちの幾つかを取りあげて紹介する。まず電子図書館を分類する方法として、蓄積対象による分類、検索方法による分類、閲覧方法による分類について説明する。次にアメリカ合州国の国内で開発中の例やプロジェクトの概要を紹介し、日本国内で研究開発中の電子図書館としては学術情報センターのELSをはじめ文部省、郵政省などの援助で進められている例を紹介する。ヨーロッパからは、EU (European Union) の研究開発プログラムとイギリス国内の大学が中心となって行っているものを紹介する。

電子図書館が実用段階に進み、日本をはじめ世界中に普及していくことによって、図書館で行われる業務や情報サービスにも変化がもたらされる。電子図書館には新着図書ばかりでなく、すでに収蔵されている蔵書類の電子化が長期に亘って着実に進むことになる。

電子図書館には大きな期待が寄せられる一方、課題も残されており、著作権などの知的所有権の問題は直面する大きな課題となっている。



人 事 異 動

発令年月日	氏 名	官 職 名	旧 官 職 名
(採 用)			
7. 10. 1	西澤 正己	研究開発部研究動向調査研究系 理工系研究部門助手	
(転 入)			
7. 10. 1	成瀬 量	管理部総務課長	浜松医科大学総務部庶務課長
(転 出)			
7. 10. 1	西山 義昭	三重大学庶務部長	管理部総務課長

海外渡航一覧

9. 30 ~ 9. 10	橋爪助教授, 片山助手 (連合王国)
9. 4 ~ 9. 14	井上教育研修部長 (連合王国)
9. 17 ~ 9. 24	小野研究開発部長 (スイス)
9. 17 ~ 9. 24	大山助教授, 神門助手, 鶴岡助手 (米国, カナダ)
9. 18 ~ 9. 23	浅野教授, 阿部助手 (カナダ)
9. 19 ~ 9. 29	橋爪助教授, 杉本助手 (米国)
9. 20 ~ 9. 29	井上教育研修部長 (米国)
9. 25 ~ 10. 2	根岸研究主幹 (オーストリア共和国)
10. 1 ~ 10. 6	小野研究開発部長, 松方助教授, 木下ネットワーク課長, 郷原国際事業係長 (タイ王国)
10. 2 ~ 10. 5	猪瀬所長 (タイ王国)
10. 7 ~ 10. 14	太田和助教授 (米国)
10. 9 ~ 10. 17	山田副所長 (ポルトガル)
10. 10 ~ 1. 7	神門助手 (米国, 文部省在外研究員)
10. 13 ~ 10. 21	高須助教授 (ドイツ連邦共和国)
10. 17 ~ 10. 22	猪瀬所長 (米国)
10. 19 ~ 11. 5	浅野教授 (フランス共和国, 連合王国)

学術情報センター日誌

[平成7年7月31日～平成7年11月21日]

- 7. 31 NECTEC Dr.Thaweesak KOANANTAKOOL, Dr.Royal CHITRADON,
Mr.Passacon PRATHOMBUTR 来訪
- 8. 21 情報ネットワーク担当職員研修 (ネットワーク管理①) ～25
- 8. 31 電子メールシステム講習会 (応用コース①)
- 9. 4 情報ネットワーク担当職員研修 (ネットワーク入門①) ～8
- 9. 5 Institute for Advanced Engineering Mr.Cheol Kyun PARK,
Mr.Sang Jun KIL 来訪
- 9. 12 ILLシステム講習会③ ～13
- 9. 13 文部省佐藤泰介政務次官来訪
- 9. 21 中国科学技術情報研究所 Mr.GUAN Jia-Lin, Mrs.WU RongRong,
Mr.ZHANG LiWei, Mrs.WANG CuiLing 来訪
- 9. 26 文部省林田英樹学術国際局長来訪
- 9. 26 フィリピン保健省中央図書館 Ms.Adelia P. MADRID 来訪
- 9. 26 目録システム講習会 (図書コース④) ～28
- 10. 3 ILLシステム講習会④ ～4
- 10. 4 学術情報ネットワークインターネット・バックボーンとタイ王国人文科学
学術研究ネットワークとの間の国際専用回線開通式 (タイ王国バンコック市)
- 10. 5 ローマ国立中央図書館長 Mr.Paolo VENEZIANI 来訪
- 10. 12 電子メールシステム講習会 (基礎コース③)
- 10. 16 上海図書館 朱慶祚館長, 曹漢新業務処副処長, 報刊部 胡美娟副主任,
上海少年儿童図書館 王小明館長, 横浜市中央図書館サービス課 佃一可調査
第一係長, 東いずみ係員 来訪
- 10. 17 目録システム講習会 (雑誌コース②) ～19
- 10. 18 前英国図書館研究開発部長 Mr.Brian PERRY 来訪
- 10. 23 情報ネットワーク担当職員研修 (ネットワーク管理②) ～27
- 10. 25 学術情報センターシンポジウム (立命館大学草津キャンパス プリズムホール)
- 10. 31 IR講習会 (基礎コースⅡ②) ～11/1
- 11. 7 電子メールシステム講習会 (応用コース②)
- 11. 8 ILLシステム講習会⑤ ～9
- 11. 13 総合目録データベース実務研修会② ～12/1
- 11. 21 学術情報センターシンポジウム (ヤマハホール)

学術情報センターニュース (第34号)

1995年12月14日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 〒112 東京都文京区大塚3丁目29番1号

電話 (03)3942-6937 (直通) 共同利用課 情報・資料係



メインシステム機種更新に伴う サービス休止のお知らせ



前号（33号）でもお知らせしましたとおり、本センターではメインシステムの更新に伴い、下記のとおりサービス休止期間を延長しますのでご協力よろしくお願い致します。

* 休止期間

・平成7年12月20日（水）～平成8年1月8日（月）

* 休止業務

- ・ 目録所在情報サービス（NACSIS-CAT／ILL）
- ・ 情報検索サービス（NACSIS-R）
- ・ 総合目録データベース個別版、定期版の提供
- ・ 拡張文字フォント移植

（学術情報ネットワークサービス、電子メールサービス（NACSIS-MAIL）については、上記期間中も利用できます。）